

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 4 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25360051

研究課題名(和文)戦時下における中国人女性の日本留学 - 華北・華中地域を中心に -

研究課題名(英文)A study on Female International students from China in War time -- Focus on those from Huabei and Huazhong Region

研究代表者

周一川(ZHOU, Yichuan)

日本大学・理工学部・教授

研究者番号：00303008

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：戦時下における中国人女性日本留学についての資料を収集するため、三年間にわたって中国、カナダ、台湾各地の史料館と図書館で当時の雑誌、新聞、官庁の教育関係資料を集めた。同時に広州、上海、北京などの留学生組織にコンタクトを取り、留学生の回想録や画像などの資料収集に力を入れた。さらに、戦時中に日本の学校に在籍した元留学生にインタビュー調査を行なった。

一連の調査で得られた資料を照合する過程で、日中戦争期における中国人女性日本留学の背景、実態が見えてき、研究期間中に国際シンポジウム、論文、書物の形で成果を発信することができた。

研究成果の概要(英文)：To gather the materials on female international students in War time of China,the author spent three year on collecting the magazines, newspapers, and the official education-related documents from the history archives and libraries in China, Taiwan, and Canada. Also, the author tried to initiate a contact with the groups of international students in Guangzhou, Shanghai, Beijing and other places, making an effort to collect the commentaries of those international students and the video data. In additional, she even conducted interviews of the international students at that time who were registered in Japanese colleges at the war time.

In the process of cross-checking all the information gathered from a series of research, the background and reality of the situation of the female international students in war time are revealed. As a result, numbers of thesis, books, presents on international symposium and other kinds of accomplishment are published. during the research period.

研究分野：近代における中国人女性の日本留学

キーワード：日本留学 女子留学 中国人女性 戦時下 留学教育

### 1. 研究開始当初の背景

戦時下の中国人日本留学に関する研究成果は、ここ数年多く見られるようになった。日本側は、河路由佳の「盧溝橋事件以後(1937～1945)の在日中国人留学生：さねとうけいしゅう『中国人日本留学史』再考」(『一橋論叢』2001年9月)、陳昊の「日中戦争期における在日中国人留学生について」(『教育学会研究紀要』31、2003年)、三好章の「維新政府と汪兆銘政権の留学生政策 制度面を中心に」(神奈川大学『人文学研究所報』2006年)、川島真の「日本占領期華北における留日学生をめぐる動向」(『中国研究月報』2007年8月)などがある。これらの研究は、主に在日留学生の実態と政策面から考察したものが多かった。

中国側は、周孜正の「淪陷区(日本占領地区)における中国青年日本留学の原因」(『民国档案』2004年3期)、「汪偽(汪兆銘政権)の留日教育」(『抗日戦争研究』2004年3期)、「汪偽時期における在日中国留学生経費の出处を論ずる」(『抗日戦争研究』2005年3期)、余子侠の「日偽(日本と傀儡政権)統治下の華北留日教育」(『近代史研究』2004年5期)、譚克侯の「抗日戦争時期における山西の日本留学」(『晋陽学刊』2005年1期)などがある。これらの論文は、中国側にある資料を使用して、原因、経費、派遣過程を分析したものが殆どであった。

以上の研究にはジェンダーの視点による分析がなく、女性像が見えなかったのである。

私は、長年中国人の女子日本留学を研究し、博士論文の一環としていち早く戦時下の留学生の研究に着手した。1998年に発表した「日中戦争時期の留日学生 概況と事例研究」(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科『人間文化論叢』第1巻)は、最初の戦時下における中国人日本留学に関する論文であった。しかし、この論文は、留学生の人数や専攻などの概況と一つ的女子留学生の事例を把握したにすぎない。

以上のように、戦時下の中国人の日本留学に関する研究は、始まったばかりといった状況であり、特に、女子の日本留学については、まだデータを収集する段階に留まっている。近代におけるアジア女性の日本留学に関する主な研究成果は、下記のようなものである。

2000年には周一川著『中国人女性の日本留学史研究』(日本学術振興会研究成果助成による刊行、国書刊行会)は、清朝末期から民国期までの女子日本留学史であり、民国初期を中心とする研究をまとめた。更に朝鮮と台湾とのそれとは異なった「満州国」型植民地の女子留学については、「[満州国]における女性の日本留学 概況分析」(科研費助成の成果の一部)(『中国研究月報』2010年9月号)という拙論がある。日本学術振興会科学研究費助成金「基盤研究C」平成20～22年度「[満州国]における女性の日本留学 1932～1945年」(代表者周一川)では、「満州国」

の留学政策と概況及び女子留学の特徴を解明し、17名の元留学生へのインタビューと留学生予備校同窓会などの資料より、各留学先の留学教育の実態や留学生生活及び一部留学生の帰国後のキャリアとライフを明らかにした。ここまでの研究を踏まえ、更に華北・華中地域の傀儡政府統治下の女子留学とはどういうものかについて解明していく。

今まで研究してきた中国人女性の日本留学と違い、戦時下という特殊な政局の中で、華北・華中傀儡政府の統治時期となつてからは、その形態と性格が変容してきたことに間違いはない。更に傀儡政府「満州国」の日本留学とも異なり、その政治的背景も留学の内容も独自の特徴を持っている。その地域に置かれていた女子留学生は、異なる文化(植民地的近代、非近代)政権(日本、中国)民族などの複雑な矛盾に満ちた交差点に立たされていた。彼女たちは、なぜ日本に行き、何を学び、帰国後どんな役割を果たしたか、という日本留学に関わった各側面を、戦時下の「知」を求める移動現象とジェンダー史の視点から分析し、日本留学史における未開拓な領域を解明することが、この研究の特色と独創的な点といえる。

### 2. 研究の目的

本研究は中華民国臨時政府(華北、1937年12月～1940年3月)と中華民国維新政府(華中、1938年3月～1940年3月)及び南京国民政府(華北・華中、1940年3月～1945年8月)を中心に戦時下の中国人女性日本留学の全体像を明らかにすることを目的としている。

ジェンダーの視点から日本への留学史を研究する成果が近年いくつか見られる。これらの研究により、かつて日本の植民地であった台湾と朝鮮及び「満州国」の女子日本留学の特徴、実態の大筋が明らかになった。以上の三つの地域の女子日本留学の概況がほぼ明らかになった時点で、戦時下における中国各地で成立していた傀儡政府統治下の女子日本留学はどのようなものであったか、という課題が提起されているのである。

戦時下で日本留学を選んだ中国人女性たちは、いかなる環境に置かれていたのか、どのような体験をし、社会にどのような影響をもたらしたかについては歴史が語っている。このような過去の真実を風化させずに明らかにすることは、「歴史の鏡」となり、大いに意義のあることに違いない。

### 3. 研究の方法

(1)日中戦争期に設立された中華民国臨時政府と中華民国維新政府及び南京国民政府の統治時期における女性の日本留学の背景、展開過程及びその全体像と特徴を明らかにするために、具体的に以下の課題の解明を計画した。

日中戦争期の華北・華中地域の各政府が

日本へ留学生を派遣した目的、過程とその結果。

女子留学の全体像と特徴、男子留学と他の地域的女子留学との相違、及び歴史的位置付け。

ジェンダーの視点から戦時下における中国人の日本留学を研究するのは、今までの研究成果では殆んど触れられていない分野であり、基本資料を探すことから着手し、三年間にわたって行ってきた。

方法としては、日本留学生同窓会や元留学生の情報から調査対象者を探し出し、インタビューを行なった。同時に、日中両国に分散している政府、学校、組織、個人などの文献資料を収集する。文献資料とインタビュー調査資料を集めた後、資料を照合し、分析した。(2) 具体的には三段階に分けて作業を進めた。

第一段階(平成25年度): 調査対象者へインタビュー調査を行いながら、華北地域を中心に文献資料を収集した。各地に分散している日本留学生同窓会とコンタクトを取り、元留学生へのインタビュー調査を行なった。同時に、中国国内の華北地域(河北省、河南省、山東省、山西省)の主な地方図書館、北京図書館などで、当時の雑誌、新聞、官庁の教育関係資料を調べ、戦時下における日本留学に関する資料を収集した。

第二段階(平成26年度): 調査の重点を華北地域から華中へ移し、華中地域を中心に文献資料を収集した。戦時下に日本に留学していたカナダ在住のW氏と大連在住のK氏へ再びインタビューを行なった。以上の調査により、当時の留学実態を部分的に判明できた。

第三段階(平成27年度): 以上の資料をとりまとめ、資料照合と分析の段階に移った。戦時下における中国人女性の日本留学の実態を解明するだけでなく、留学生の事例を通じて彼女たちの帰国後の行方を追った。

今後、「満洲国」の女子留学生と比較して、その後の中国社会への関連も追及する。さらに、戦時下における同じ東アジアの四つの地域的女子日本留学の共通点や相違を比較し、それぞれの歴史的位置づけを明らかにする予定である。

#### 4. 研究成果

「戦時下における中国人女性の日本留学」という課題について、近代中国人日本留学史では、今まで殆ど触れられることがなかった。今回の研究により、詳細な留学生データや、当時の日中両政府の政策、そして留学の実態などいくつかの側面を明らかにすることができたのは、研究上の空白を埋める大きな成果であったと言える。

戦時下における華北・華中地域の日本留学についての資料を収集するため、三年にわたって中国、カナダ、台湾に計20回出張した。出張中に各地の地方図書館で当時の雑誌、新聞、官庁の教育関係資料を調べ、戦時下にお

ける日本留学に関する資料を集めた。同時に広州、上海、北京などの留学生組織にコンタクトを取り、留学生の回想録や画像などの資料収集に力を入れた。特に広州「留東同学会」では戦前留日学生の子女グループのリーダーにお会いすることができて、貴重な資料をいただき、収穫が多かった。

日本国内では東京にある図書館、史料館および関連大学の図書館で文献資料を調べた。一連の調査で得た資料を照合する過程で日中戦争期に設立された中華民国臨時政府と中華民国維新政府並びに南京国民政府の統治時期における女性の日本留学の実態が見えるようになった。

具体的に以下のような成果になる。

(1) 中国人留学生に関する主な資料の入手(今まで収集した資料を含む)

中国留学生監督処の資料

日華学会の中国人留学生名簿

1927年~1944年(全18冊)

駐日満洲国大使館『満洲国留日学生録』

1935年~1943年(1942年欠)

国民政府教育部資料(一部)

外務省史料館による文部省資料(一部)

各留学生を受け入れた学校の校史(一部)

留学生によって出版された雑誌、新聞(一部)

日中両国の留学生についての新聞記事・報道など(一部)

(2) 基本データから留学生全体像を見る  
戦争中という特殊な時期の日本の学校記録は、健全なものではなく、記録がない学校や、紛失や焼失により、学籍簿がすべて失われて調べようもない学校もある。しかし、当時の留学の全体像を明らかにするためには名簿が一番基本的な資料である。本研究では上記の留学生資料を使用して、東京女子医学専門学校、川端画学校を中心に留学生全体像を分析した。

「満洲国」女子留学生が医学に集中していたことは違って、華北・華中地域の女子留学生は一つの専攻に集中する現象が見られなかった。

(3) 事例分析から見た留学生活の実態と留学生の帰国後のキャリアとライフ

平成25年度に北京在住のJ氏(奈良女子高等師範学校卒業生)と天津在住のK氏(奈良女子高等学校卒業生)、平成26年にカナダ在住のW氏(奈良女高師1943年入学生)と大連在住のK氏(東京女子専1943年度入学生)にインタビュー調査を行うことができた。皆様高齢であるにもかかわらず、快くインタビューに応じ、戦時下の日本留学について詳細に話してくださり、戦時下における実相が見えるようになった。

戦時下の女子留学生は、戦乱に巻き込まれた時期が長く、戦争の被害者でもあった。彼女たちの中には、戦乱をさけるため、学業を中断して帰国した者も少なくなかった。さまざまな留学経験を持つ彼女たちが、帰国後歩んだ道は多様であった。

元留学生へのインタビュー内容は、時間が随分経ったことや、さまざまな事情があったことにより、間違った記憶、曖昧にされた部分、省略されていた内容などもあると感じさせられた。それを文献資料と照合することは極めて重要であり、複数の証言も信憑性に関する重要な根拠になるが、当事者の経歴や生活環境の要素も含めて総合的に判断する必要がある。

#### (4) 戦時下における日本留学の性質

日中両国の官庁史料を調べた結果、中華民国臨時政府(1937年12月北京で設立)と中華民国維新政府(1938年3月南京で設立)の最初の留学生派遣は日本からの要請であったことがわかった。その後、終戦までに毎年華中・華北地域の政府から留学生を日本に派遣したが、対日協力政府からの日本留学なので「対日協力」の性質があったことを無視できない。

三年間の研究期間中に国際シンポジウム(口頭発表2回)論文(5篇)書物(共著2部)の形で研究成果を発信した。今後も本研究の成果を論文で順次発表していく。

これから本研究の継続とも言える「終戦直後における中国人留学生の葛藤と選択 - 女子留学生を中心に - 」というテーマで研究を始める。従来の研究成果と合わせて、『近代における中国人の日本留学 ジェンダーの視点から』というタイトルの元に本を出版する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 〔雑誌論文〕(計 5 件)

周一川「民国时期留日美术学生中的女性 1922~1944年」(中国語)査読有  
中日教育研究協会『中日教育論壇』第6期、2016年4月、59-68頁。

周一川「民国时期留日美术学生的名单汇集和史料分析 1923,1925,1927~1944年」(中国語)査読有

齊魯師範学院学報編集部『齊魯師範学院学報』第30卷第6期、2015年12月、6-18頁。

周一川「時下における東京女子医学専門学校の中国人留学生 1943-1944年を中心に」査読無

神奈川大学人文研究所『人文学研究所報』No.54、2015年9月、53-63頁。

周一川「近代中国人留学生統計資料に関する考察 民国期を中心に」査読有  
中国研究所『中国研究月報』、2014年11月号、26~39頁。

周一川「近代中国女性日本留学史研究概況」(中国語)査読有  
山東女子学院『山東女子学院学報』2013年第6期、77-80頁。

#### 〔学会発表〕(計 4 件)

周一川「中国女性日本留学史の研究過程」留学生史研究会・遼寧師範大学教育学部共同主催「国際学術座談会」中国遼寧省大連、2015年3月20日。

周一川「近代中国人留学生統計資料に関する考察 民国時期を中心に」(日本語)  
神奈川大学「中国留学生史研究会」、神奈川大学箱根保養所(神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1104-1)、2014年9月26日。

周一川「民国時期的留日美术学生 - 美术学校留学生的名单收集和史料分析」(中国語)  
天津大学王学仲芸術研究所[日本館蔵近代以来中国留日美術家文献資料整理与研究] 第一段階国際学術論証会、中国天津、2013年10月19日。

周一川「近年来中国女子留学生研究動向報告」(中国語)

北京大学歴史学部・神奈川大学人文学研究所主催「近代以来中日留学生」学術研討会、中国北京、2013年6月22日。

#### 〔図書〕(計 2 件)

大里浩秋・孫安石編著『近現代中国人日本留学生の諸相 「管理」と「交流」を中心に』御茶の水書房、2015年、共642頁。(共著、207-226頁)。

大里浩秋・孫安石編著『近現代中日留学生史研究新動態』(中国語)上海人民出版社、2014年、共264頁。(共著、176-196頁)。

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

周一川 (ZHOU, Yichuan)

日本大学 理工学部 教授

研究者番号: 00303008